



編集・発行 山見乃勢能 山見乃勢能
日蓮宗 能勢妙見山 広報部
〒563-0132 大阪府豊能郡野間中
電話 072-739-0329
FAX 072-739-2883

失せ物

日慧

たしか、ここに置いてあつたはずだが、見当たらない。どこへやったのか。日に一度はそんな探し物のために時間をとられる。

時間をかけて探すことができる場合はまだいい。先日のこと、出掛ける間に運転免許証がないことに気付いた。顔色を失うばかりの大騒ぎとなった。

家中総出でいつもあるはずのカバンの中を探し、ここぞと思うところをひつくり返す。出発時間は迫るが出てくるのはため息とグチばかり。もうだめかと諦めかけたその時、「ここにあつたよ!」。その声を聞いた

時のうれしさ。とにかく間に合つて良かったと、心底誰にともなく感謝した。

さてそこでふと思つたのだが、あるのが当然の免許証がなくなつたからこそ感謝の念がわいたわけで、いつも通り手元があれば感謝する気にはならなかつたことだろう。これは免許証だけのことではない。空気にしてしる水にして、家族にしても、実は他に代えることのできない大切な宝を、私たちはいかに粗末に扱つていくことだろうか。

釈尊が八〇年のご生涯を閉じられたのも、私たちのこのような心を推し量つての故であつた。釈尊は実は永遠の生命をもつ久遠の仏であり、滅するということ

がないのだが、いつも私たちの眼前にいると空気と同じようにその存在を忘れられてしまう故、目に見えないものとされたのである。そして大地が生きとし生けるものを分け隔てなく支え、育んでくれるように、対価を求めることない無償の行為として、仏は私たち衆生を見守り、いつ私たちがすがりついてもいいように手を差し伸べ続けている。

さつているのである。いつ私たちが仏の存在に気付くのか、まったく判らないにもかかわらず、何故そこまでして下さるのか。それは、あたかも親が子を守り育てるようなもので、仏にとつて私たちは子であるからだと言明される。これを大慈悲の心という。御降誕会花祭りに当たり仏の大慈悲心を胸に刻み感謝のお題目を唱えたい。

《法華經に学ぶ現代》

常に智慧を

思惟し

問難すること

あらんに

瞋らず

随順して

ために

解説せん

『分別功德品第十七』

〜純智庵〜

【4月の主な行事】

- ★写経会 8日(日)11時
- ★月例祈願法要 15日(日)13時
- ★星嶺演奏会 15日(日)11時
- ★鷗様月例祭 22日(日)15時
- ☆開運祭 20日(金)終日
- ※寺務所窓口にて開運守授与
- ☆星嶺祭〜こどもまつり 29日(祝)

- 11時 30分星の子パレード
- 11時 45分子供祈願大法要
- ※法要後は人形劇、太鼓演奏、かわいいポニーや、こどもたちに人気のこぞうくんも来るよ!
- ★星嶺祭参加者募集!
- ☆星の子(祈祷料三〇〇〇円)参加希望者は11時に集合

【5月の行事予定】

- ★写経会 13日(日)11時
- ☆妙見大菩薩年大祭 15日(火)
- 11時 荒行成満の修法師による特別加持
- 11時 50分 法話西村花蓮師
- 13時 星嶺にて祈願法要
- ※特別加持祈祷ご希望の方は事務所にて受け付けています
- ★鷗様月例祭 22日(火)15時
- ★星嶺演奏会 20日(日)11時
- ★星嶺茶論 20日(日)13時
- 《交通のご案内》
- ◆ケーブル&リフト毎日運行中

口は成仏の元

中沢勇輝

四月に入り、ようやく暖かくなってきました。

暖かくなるとキツくなるのが花粉症。目がかゆくなり涙がこぼれ、鼻はひっきりなしに垂れてくる鼻水を拭きすぎてヒリヒリと赤くなってきました。頭もぼんやりとしてきて早く春が終わらないかといついつい愚痴っぽくなってきました。

かといつてスギやヒノキに囲まれた山の中に住んでいるとはどこにも逃げ場はなく、この時期ばかりは一日中お風呂にこもるか、花粉症のない北海道か国外へ逃亡してしまいたい気持ちになります。

つい一ヶ月前までは、毎朝氷点下の中でお給仕しており、あまりの寒さに凍えながら早く春が来ないかなとあれほど待ち望んでいました。ですがいざ春が来て

みると、早く春よ終われと願ってしまいます。

この調子だと、きっと春が終わると梅雨のジトジトの中、夏が来て欲しいと考え、夏は夏であまりの暑さに冬が恋しいと言っていることでしょう。毎年このことのでいい加減慣れても良さそうですが、なかなか慣れる事はなさそうですね。

さて季節のことに限らず私達は往々にして目の前のことにしか目が届かず、嫌な事も喉元過ぎれば熱さを忘れ、また次の目の前にある嫌な事から逃げ出したくなります。

これは私たちが迷いの世界において、正しい見方ができないために起こると考えたのが仏様。さらに仏様はどうすれば正しい見方ができるのかについて説かれていたのですが、お釈迦様と直接お話しできない今となってはそれを理解するのはとても難しいと考えられ

先日、子供の卒園式の保護者の謝辞で印象的な表現があった。それは「忍耐強い愛情で子供を支えてくれた先生方」というフレーズだ。

「愛」と「忍耐」は一般的にはあまり結びつかないような気がするが、幼稚園の先生の愛は、子供が理解し、で

☆☆☆☆星のたより☆☆☆☆

きるようになるのをそばで見守りじっと耐えるまさに忍耐の愛だ。仏の慈悲もこれと同じだ。仏様は別名「能忍」とも呼ばれ、私達一人ひとりが仏の知恵を学び悟りをひらくのをそばで辛抱強く待っておられる。四月八日は花祭り、仏の慈悲に感謝したい。

U.K

俳壇

（みのり）

一人佇つ村のバス停草青む

お仏飯そなえの温もりほのか花祭り

掌を合す笑顔の合格子

参道の土手につんつくしんぼ

花便り少し遠出の杖を曳く

法華経茶話

お経とは何か

私達僧侶は回向や祈禱をするときにお経を読みます。でも信者さんの中にはお経は呪文みたいで何を言っているのか全然わからない、と思われる方もおられるでしょう。

お経とは、お釈迦様が出家者や在家者に対して語った教えを弟子たちが口伝によって語り継いだものです。今我々が読んでいるお経はきちんと文字になっていますが、それらはお釈迦様が入滅されて、かなり時代が下ってから編纂されたものです。何故かという、文字にすると後からいつでも読めってしまう安心感から、その時々聞いた言葉を命がけて受け止め、忘れないという、仏教の基本的な修行が疎かになってしまっからです。しかし、口伝だけではどこで教えが変化してしまうかわからないので、やむなく文字化に踏み切ったのです。